

### 第3回 勝山市立幼稚園のあり方検討委員会 議事録(要点筆記)

日時：令和4年10月4日(火) 午後7時～8時30分

場所：教育会館 第4研修室

#### 会長

前回のあり方検討委員会では、様々な立場からたくさんの意見を頂いた。それを踏まえ、さらに意見をいただき検討委員会の協議を深め、集約の方向に向かいたいと思う。

#### 事務局

第2回の確認として、幼稚園・認定こども園・保育園の幼児教育の施設は違っても、国が示しているそれぞれの教育の内容・ねらいは、同じである。

現時点の市の考えとしては、公立・私立、幼稚園・認定こども園・保育園の枠を超えて、幼児教育そのものを一つの塊として捉えて進めていかなくてはいけないのではないかと考えている。

そのことについて、委員より私立の園の活動などを教えてもらった。また、別の委員からは、保育園・幼稚園問わず全ての勝山市内の子どもたちが、自然に触れている活動のことを伝えてもらった。他にも様々な意見の中に委員の中から、幼稚園の財政面を教えてほしいという質問について答えたい。

(資料1)令和3年度の公立幼稚園にかかっている経費はいくらかというところで、決算数字を出した。人件費と施設の管理費を含めて、37376千円がかかっているということである。令和元年度から今までの園児数と職員数も参考に付けさせていただいた。

保育園のあり方検討委員会でも話は出ていたが、幼稚園は私立がないので比べようがないが、市として純粋に約3700万を持ち出しているということになる。福祉児童課に確認を取ったが、公立保育園と私立保育園にどれだけお金がかかっているかを出すのは難しいという考えである。乱暴な言い方だが、私立は国と県と市から補助金が出ていて、ざっくりとした計算だが、全体経費の中から1/3から1/4を市が負担しているぐらいの認識でお願いしたい。

会長には、先週成器南幼稚園の視察に行った時の意見も踏まえながら進めていって頂きたいのでよろしくお願ひしたい。

#### 会長

財政面での説明について、意見や質問をお願いします。

#### 委員

中部幼稚園と南幼稚園が統合する際に、保護者から質問の中に財政面の内訳を訪ねたら、ほぼ人件費だという回答をもらった。今回もほぼ人件費と思ってよろしいか？

#### 事務局

細かい数字は答えられないが、人件費が多くを占めているのは間違いない。

#### 委員

この3700万円が勝山市の財政に及ぼす影響は、解るか？

幼稚園がなくなったら、0円になる。そのことで、私たち市民が潤うことがあるのか？他の教育面でプラスになることはあるのか？支出がなくなることで、良くなることや、影響を与えていることはあるのか。

#### 事務局

3700万がどれくらい勝山市に対する影響があるかと言えば、それほど大きな影響はない。これからの話になるが、幼稚園がなくなったとしても幼児教育全体に回すということはあるかもしれない。単純にこの3700万円がなくなったとして、勝山の財政が楽になるかということはない。まず、財政面で幼稚園を無くすということが論点ではないと考えている。前回に質問があったということで、あくまで参考までにということで、回答した。

#### 委員

この金額は、保護者からいただいているお金を引いた金額か。

#### 会長

幼稚園の、保育料は無償化になっている。

#### 事務局

これは、基本的に歳出の分である。これに対して歳入があるかという、保護者からいただいたお金とかはほんのわずかである。

#### 委員

幼稚園に係る経費なら、幼稚園で働いている先生方は市の職員だから、仮に幼稚園がなくなっても、他の職場に配属されるので税金がかかることに変わりはないので、幼稚園がなくなっても係る経費に変わりはないということか。

#### 事務局

先ほど、全く影響がないと言ったが、そういう意味も含まれている。

#### 委員

例えば幼稚園と保育園とこども園と比べると、幼稚園のほうが国から入ってくる補助金は多いのか。補助金は抜きにして、市の持ち出しがこれだけということか。

#### 事務局

この支出の中に、補助金等が入っていない。純粋に市の持ち出しの分ということだ。

## 委員

こども園は幼稚園化されているから、同じ条件といえる。そうすると、4・5歳児はそれぞれ30人で職員は1人、3歳児は20人で職員は1人という配置基準なので、先生は1人でいいということになる。3700万のところ、1人の職員の人件費が必要となると、私立園では、ほとんどの職員は400万ぐらいもらっている。3700万から400万引いたとすると、3300万が浮いてくる事になる。南幼稚園を私立園と置き換えると、経営が圧迫し赤字財政で続けていくということになる。それでも幼稚園が存続していったほうがいいのかということだ。年長児の6人が卒園すると、3人と4人、そして入園児が入ったとしても3人ぐらいかと予測できる。

そういう中で、職員を雇ってこれだけの額を支払っていくということである。先ほど職員の職場が変わっても人件費を払うのは一緒ではないかと言うが、その人たちも定年を迎える。新しい職員は迎えていないと聞くので、そういうことも予測したうえで市は採用をしていないのだと思う。

## 会長

市としては、この金額はさほど影響を与えるものではないということだが、私立のこども園にすれば、こんなに費用が掛からずにできるという意見である。

## 委員

先ほど人数の話も出たが、中部幼稚園と統合する時に10人を切ったらということで10人という数が出ていた。その時に、南幼稚園も10人を切ったら話をしていかななくてはいけないという話だった。この10人というのは、財政面から見て出た数字なのか。

## 事務局

中部幼稚園が廃園となる時点で10人を切っていた。10人であっても13人であっても、そこに大きな意味はない気がする。統合した元年度の数字を見ると21人である。そこからの経過を見ると、基本の考え方を見る場合には10人がどうかという問題ではない気がする。

## 会長

10人という数字で中部幼稚園が廃園になったということで、南幼稚園はまだ10人を切っていないという委員からの意見である。ただ、この10人という数は、子どもの集団性の問題から来ている数字かと思うので、財政面からだけということではないと思われる。

## 事務局

今の話で、平成30年の9月にあり方や答申を踏まえた「勝山市幼稚園統合計画」が出ている。それを見ると、「10人という数字については、3歳児から5歳児合わせて10人に満たない規模では多様な集団生活を行うのに限界があるという意見に集約された」という表現がある。財政の面では、当時2つの園で年間6500万円前後の維持管理等で運営しており、毎年1人当たりの経費は増加しているということを踏まえて、財政面だけでなく教育の面も併せてその当時は議論しているということになっている。

委員

私は人数の少ない小学校や多い小学校でも校長をしたが、子どもが少ないと市からいただけるお金は少ない。基本の額があるが、人数割りで頂けるお金もあるので、小さい学校から大きい学校に来たときに、児童の人数が増えると金額が増えたことでいろんなものが買えると感じた。だから、幼稚園も人数が少ない分、我慢しないといけない事があると思う。

会長

予算の話では、小さい所ならではの苦労があるということである。意見はいかがか？

委員

自分の住んでいる校区の小学校もどんどん人数が少なくなっている。

うちの地区も以前は保育園があったが、人数が少なくなり廃園になった。最初は遠くまで行かなくてはいけなくて嫌だと思っていたが、慣れるにつれて保護者の都合でそれぞれの保育園に預けているというのが現状である。

会長

それまで、地域に保育園があったのになくなり他の園に行くことになった時に、課題や問題はなかったか。

委員

地区が長いので、端に住んでいる人は真ん中に来るより、他の園のほうが近いということもあり、そこまで苦情はなかったと聞いている。

会長

時間が来て慣れてきたら、問題はないということか。

委員

今までは地元の人ばかりだったのが、色々な園から小学校に入ってくるようになり、最初はおもいおもいしている様子だった。慣れるまで大変そうだった。

会長

同じところから小学校に入るのとは違い、ちょっと大変そうだと感じたのか。

委員

半年ぐらいは、みんなぎくしゃくしていたように思う。慣れるまで、おなかが痛くなったりして帰るお子さんがいたのを見たことがある。

会長

貴重な意見をありがとうございます。

財政面では、人数が少なくなると財政支援も少なくなっていくということで、そこはやむを得ないという話が多かった。事務局からは、市としては3700万というお金はそんなに問題ではないという内容だった。財政面について質問等があるなら、お願いしたい。

事務局

誤解があるように聞こえるので、3700万がいらなくてではなく、市全体の予算の中では大きい割合ではないという事である。3700万を南幼稚園にかけているという点の一つ。ただ一方で、私立保育園等は、国や県から補助があるので、市がかけるお金は1/3とか1/4ほどで運営できるということである。子ども一人当たりどれだけのお金を投入しているかという感じで見ると、現状では南幼稚園はたくさんかけているという事である。先ほど伝えたように、幼児教育全体に回していくという考えもあると思う。このお金が欲しくて幼稚園をとという話ではないということだけ確認させていただく。

会長

事務局からは、勝山市の子どもたち皆に同じような教育を受けさせたいという基本方針のもとに、平等かつ基準化したいという考えであるということだ。財政面については、よろしいか。そしてここからは、財政面で1人あたりに係るお金ということも踏まえて、この協議の中心になる幼児教育という事について考えていきたい。

幼児期の教育については、先ほどの事務局の説明のように、成器南幼稚園に、1時間弱ほど参観させてもらった。まずは、感じたことを報告する。成器南幼稚園は、5歳児は6名、4歳児が4名、3歳児が3名、午後の活動の年齢を解いてそれぞれ交じりあって遊んでいる姿を参観した。

子どもの主体性を大切に、子どもの思いを十分に引き出しながら、のびのびと子どものやりたいことを実現できている、本当に幼児教育の基本を踏まえた活動をしていると感じた。子ども自身が環境に関わって遊びを作り出し、異年齢の子どもと関わり合いながらの活動は、幼児教育の基本だと感じた。そして、年長児の振り返りの時間を見せていただいたが、この年長クラスの6名というのが、女の子が5名、男の子が1名である。5歳児というと、集団性がとても重要な時期で、友だち同士で話し合ったり切磋琢磨したり、色々なアイデアを出し合ったり、関わりあったりして遊びを上げていく時期に、男の子が1人ということに衝撃を受けた。その子は、のびのびと楽しく自分の思いを出して遊んでいた。振り返りの時にも、空き箱を使って魚を作り「シャークを作った」と得意げに自信をもって発表していたが、この子は一人でこれを作ったのかと思ったときに、他の子との刺激や関係の中で作り上げていたり、練り上げていたり、他の子の考えを受けて作り直していたりするような経験がもしかしたらできていないのかもしれないと感じた。素晴らしい教育をやっていると感じたが一方でそう感じた。

私のほうで用意した資料をご覧頂きたい。これは、大学の授業で使っている資料である。私は幼児期の教育が専門である。これは幼稚園教育の基準となる幼稚園教育要領の一部分で、一番左の列の学校教育法23条は幼稚園教育の目標である。この目標を具体化するために、幼稚園のねらい・内容・内容の取扱いというのが5つの領域「健康」「人間関係」「環境」「ことば」「表現」に分けて示されている。この中で1番は、幼児期の教育の部分で、友達と関わって力を身につけていくということが大きいという

人間関係という領域である。前回の共同性とか規範意識とかという言葉が出ていたのはこの部分の人間関係のねらい内容でついてくる力となる。ねらいの2つ目「身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ」とあるが、本当に子ども同士の関わり合いの中で、多様な意見とか多様な考えとかを受けながら付けていく力である。これは学級の活動だけにとどまらず、好きな遊びの中でもいろんな意見を取り入れて作り上げていく力が身につくことが幼稚園教育要領の中のねらいに書かれている。そして、内容の中にいろいろな経験ができるように指導するということが書かれていて、内容の(5)友だちと積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感しあう。と書かれている。

男の子1人だということと、3歳児からずっと一緒に6人で3年間過ごしてきたと伺った時に、この子はこんな子だ、こういう風に関わればいいというようなパターン化してしまう恐れがある。いろいろな友達と関わるのが、6人という小集団で3年間続くことで、子どもの多様性を感じることに身につかないのではないかと感じる。内容の6番目だが、「自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気づく」の部分だが、やはり喧嘩をしたりいいあそびをする中で相手の思いに気づいていく。固定化された集団の中では、いろんな人の多様な思いに気づくことは難しいと思う。

例えば、サッカーをしたい子がいたとする。好きな遊びの時間に「サッカーやろう」と言ってみんなで集まりチーム分けをしたり、その中で〇〇ちゃんと△△ちゃんは上手だから違うチームねとか、ひとりひとりの力の差なども考えながらチーム分けをしたり、作戦を考えたりそういう多様な活動が少人数では難しい。とてもいい教育をしていることを前提として、それだけでは補えない部分が少人数では難しいと考える。多様性の時代でいろいろな人との関わりが大切になる。障がいのある人に対しても、いろんな人との関わりの中で育っていくという面が幼児期に置いて非認知的な能力が育っていくことが幼児期では重要な時期だといわれている。質問や意見をお願いしたい。

#### 委員

勤務している小学校は、今年は8つの園から入学した。幼稚園から来た子は、優しくのびのびとしていて素直でほんわかした子が多いが、先頭になって何かをするときに二の足を踏む子も多いと感じる。幼稚園から「この子はリーダーとして活躍しましたよ」と申し送りがあっても、大勢になることで自分を出せずにいると思うことがある。多すぎてもいけないと思うし、適正な数で教育を受けられるということが大切なのだと感じる。

また、会長が言うように多様性というのがキーワードだと思う。いろんな子がいてその部分を子どもたちはクラスの中で上手に認めていく。子どもは素晴らしいと思う。小さいころから違うと思うような所があっても認めあっているということを感じる。

#### 会長

適正人数と多様性という重要な部分である。

#### 委員

保護者として幼稚園は人数が少ないので、小学校に上がる前にいろんな友だちと関わらせてあげたいと考える。今の5歳児は、第2子第3子のお子さんばかりで、上の子のスポ少について行き他の園の

子どもと遊んだりして仲良くなっている。足りない点を親が補っていることが多いと聞いている。

こども園においても、人数が少なくなってきて同じようなことが起きる可能性もある中で、市として何か対策を考えてくれるとありがたいと思う。

会長

市として適正な人数を決めるとか、子どもが少なくなっていく中で何か対策ができることは考えているのか。

事務局

適正な人数という点では、子どもたちを集めて何か活動の場を設けるということなら、幼稚園と連携して行事的にはできると思うが、日常的な部分では弱い。

会長

ある程度の人数で教育できる状況を進めていくということが市の方針だということは感じる。

委員

小学校に入って、幼稚園の子と保育園の子では差があるのか？

委員

お子さん一人一人の個性や性質があるので、一概に言えないが全般として、幼稚園の子はいい意味でほわっとして素直な子が多い。低学年の先生方に聞いたが、皆さんそうおっしゃった。

委員

僕も知り合いの先生方に聞いたが、こども園は早期に平仮名とかを教えたりしていると聞いた。

委員

そんなことはない。

委員

幼稚園は、小学校に入ってからでいいとよく言われている。こども園は教えていると聞いたが。

委員

教えているのではなく、環境を整えている。子ども自らが覚えていくような環境を整えている。教えるのではなく、子どもから聞いてくることに答えていくということはある。

委員

僕が聞いた先生は、こども園の子は入学してすぐは勉強ができると言っていた。幼稚園の子はどうかと聞いた時に、発想力やアイデアの面で優れていると言っていた。違う園で育ってきた子が小学校で

交じり合いより良い教育や発達につながっていると感じると数名の先生方が言っていた。園が減っていくことに対して、小学校に上がってきた場合に関して、なるべく減らして欲しくないとも言っていた。

#### 委員

それぞれの園でいろいろな教育をしてきている。勤務している小学校は多くの園が集まっているので、それこそ多様性という部分ではいいと思う。幼児教育のうちにたくさんの人と関わるという経験をしていくことが大切だと思う。

#### 会長

少人数すぎると経験できないことがあると思う。

#### 委員

先日、南幼稚園と一緒に3時間半ほど自然観察をして過ごす中で、5歳児が女の子ばかりだと最後に気が付いた。活動している間は、異年齢で活動し交わっていたので最後にしか気が付かなかった。私は専門家ではないので一人だと大変だということは感じなかった。多様性とか適正規模と言うことともわかるが、少ないことも多様性だと思う。小学校でも少ない学校があるので、大勢いることも園から少ない学校に行く場合も考えると、適正規模ということが何なのかわからない。確かに人数が多ければ関わり合いも増えてきて良いが、少ないからこそ良いこともあると思う。

今の4歳児は4人いるが、みんなばらばらの小学校に入ると聞いて、せっかくお友達になっても卒園をしたら別れるのかと思った。その子たちは、小学校に上がった時はどうなるのかと感じた。でも、昨年南幼稚園と関わってきて、少ないからできることもあると思うし、少ないから大変だとか見えない。そう考えると、適正規模ということが分からないし、こども園も園児数が減ってきている。

#### 会長

こども園も園児数が少なくなってくると、経営的に難しくなってくるという状況で、幼稚園だけでなくこども園もこれからを考えていかなければいけないと思う。

#### 委員

考えている。自分の保育園云々という考えを抜きにして、勝山市の子どもとして、幼児教育を考えてまとめていくことが一番いいのかということ悩んでいる。それとこのような話し合いをするときには、保育園、こども園のことを実際に見て理解して欲しい。多ければ多いように、少なければ少ないように、勝山市として少子化の時代に向けて、未来を担っていく子どもたちが安心できる環境を整えることが私たちの責任だと思っている。しっかりと前を向いて歩いて行ける子どもたちに育ってくれるといいと思っている。

#### 委員

保護者の方が一番わかっていると思う。子どもをどこに預けようかというときに、人数は少ないかもしれないが、選べる選択肢の範囲の中に幼稚園があるのは悪いことではないと思う。

#### 委員

経営のことを考えると、その人数ではやっていけない。なんでも良しではいけないので、よく考えて結論を出さないといけないと思う。私は自分を信じて子どもたちのために何ができるかを一生懸命考えている。

#### 会長

この会議のもとの考え方というのが、勝山市の子どもたちのこれからを考えた時に、どのような規模が適正かということがコンセプトである。これからの子どもたちが育っていくために、どのような体制を整えたらよいのかということ話し合うのがこの会の主旨だったと思う。

事務局のほうからは、財政面の質問に対する報告と、財政が幼稚園のあり方を検討する主旨ではないという説明があった。

委員からは、幼稚園を選択肢の1つとして残したらどうか、少ない人数だからだめだということではないと言う意見が出た。

いろんな考えがあると思う。ただ、現在多くの支出を少ない子どもたちで使っている状況でいいのかということも含まれている。

勝山市の子どもたちにより良い教育を受けさせるためには、どうしたらいいのかというところを話し合っているが、どう考えているか。

#### 委員

私も小学校で勤務していた時に1学年男の子2人のクラスがあった。少ない人数だと力関係がはつきりしてしまう。その力関係のままずっと過ごさなくてはいけないということが、デメリットになる。少なくとも何でも言い合える関係性ならいいが、1回崩れると人数が少なすぎて立て直しがきかない。1クラスの人数が少なすぎても多すぎても駄目だと思う。人間関係でいじめやトラブルが発生した時や、荒れた子が1人でもいると大変だし、何人かいるクラスだと手が付けられなくなってしまうことがある。そう考えると、適正規模ということはとても大切だと考える。私は、人数が多いのは反対である。複式クラスにしてもぎりぎりの人数ならしなくてもいいと思っている。何人とは言えないが、話し合いができたり違う意見が出る2グループができるぐらいが理想ではないかと思う。

うちの孫が春からこども園に行きだした。今まで家に一人でしたので変わってきた。ただ人数が少ないのは取り返しがつかないといわれているようで、複式学級はだめだといわれているようだがっかりした。確かに、多くてもだめだし少なくともだめだと思う。

#### 会長

複式学級がだめだとは言っていない。力関係が固定化してしまうのではと言ったつもりだ。適正規模に対する考え方は難しいが、委員はどれぐらいが良いと考えるか。

#### 委員

はっきりした人数は言えないが、多いのは反対。多いのは問題が生じる。

会長

それは、学校の学年で、ということか？

委員

幼稚園や保育園のことはわからないが、学校でよく言われているのは、3グループができるというということだ。

会長

適正ということに共通理解をしていくという考えを提示していただいた。1学年が10人はいたほうがいいのかということになる。他の委員はどう思うのか。

委員

私も、2グループができる12人ぐらいいるのが理想的だと思う。思うが子ども自体がないのはどうしようもないと思う。適正人数にするにはどうしたらいいのだろうか？こども園の1号の子も少ないが幼稚園に来てもらうとかは無理だろうし、私は選択肢として残せていけたらと思っている。

委員

確かにその人数だと先生が目もいき届くが、少ない人数だとできないことも出てくる。子ども達からその経験を奪っているということになる。

委員

今、幼稚園はこの状況だが、勝山市の出生率を考えると10年もしたらこども園でも同じようなことになってくると思う。

委員

勝山市の少子化を止めるにはどうしたらいいだろうか。

会長

この会は、まず幼稚園のあり方を考えるためのものなので、勝山市全体のことを考えると私立こども園も含めて適正な人数について考えていかななくてはならないことが必要になってくるということだ。1学年が10人から12人という数が適正ではないかという意見がでた。副会長、いかがか？

副会長

皆さんが言ってくれたので新しい考えはないが、数が少ないと子どもに対する目が行き届くが、あまりに少なすぎると集団生活の中でいろんな経験ができないということ、南幼稚園がもっと少なくなってきたときに運動会も難しくなってくると思う。適正規模が何人かということは、私にはわからないが、少なすぎることは問題があり、幼稚園に園児がもう少しいたほうが良いと思う。

会長

本当なら1学年20人はいてくれるのが理想だと思うが、今の状況だと難しいこともわかる。

委員

経営面の場合、各年齢によって運営費がもらえるが、人数が少ないと少ない金額しかいただけない。何が困るかという、120人の建物に例えば50人の人数がいた場合、50人分の金額しかいただけないということになる。公立の場合だから何とか出来ているが、私立ではこの状況ではやっていけない。

園児数が少なければ入ってくる金額は少ない。先ほど多様性という話が出ていたが、1クラス20人いたとすると数名の手がかかる子どもがいることがある。その子たちに先生をつけなければいけないのに、そういう手がかかる子に対してのお金は微々たる金額しか入ってこない。そのクラスに1名だけならいいが複数いた場合、その子にもつけなくてはいけない。私立の場合は、なんとかしてきているので不公平だと感じる。バス代の補助にしても、1園10万円までと決まっている。人数の多い認定こども園だと4、5歳児だけで1回使ったら終わりということになってしまう。経営をしているといろいろな部分で矛盾を感じる。園児数が少ないと経営には弊害があるということが現状である。

委員

幼稚園と保育園とでは、幼稚園のほうが補助金は大きいのか。

委員

幼稚園もこども園も同じだけ出ている。幼稚園の1号認定とこども園の1号認定と交付金額は同じである。

委員

そんな状態なのに幼稚園部分を作るのか。

委員

保護者の方が入園したいと希望しているからである。保育をしてほしい、長く見てほしいと希望している保護者がいるということだ。

委員

経営の話を知っていると、市で予算をつけてもらうかこども園の数を減らすかしないと成り立たないということか。

委員

そうだ。だから今、こども園もどうしたら良いか考えているところである。経営の部分で今は何とか成り立っているが、2、3年後にはどうかということだ。

委員

子どものことを考えると、先生の労働環境に応じた給料を保証しないと、やはり人間だからどこかで

手を抜いたりするのではないかと思う。そうなると、幼児教育の質自体が落ちてくるので、できたら市で予算をつけてもらえたらいいと思う。

委員

中部幼稚園の時も思ったが、もし幼稚園がなくなったら教育委員会は就学前の幼児に対してどのような関わりをしていくのか？就学前の子どものことから手を離すのか？

事務局

前日も話したが、こども家庭庁がスタートする。勝山市としてどのような方向になるかは未定だが、幼稚園がなくなったから教育委員会として所管するところがなくなったので知りませんということはない。勝山市の幼児教育全体を考えて、福祉と連携し就学前の幼児のことはしっかりとしていくことは当然だと思っている。

委員

幼稚園だと自動的に教育委員会に入るが、認定こども園になるとどうなるのか。

事務局

教育の質を上げるために、幼稚園と連携して研修などしている。幼稚園の先生がいなくなるということとで、いろいろな考えをしていかないと思っている。例えば、勝山市の中にこども家庭庁的なものを作るとなると、幼稚園の先生はそこにいてもいい教育の充実を考えてもらうこともできる。実際幼稚園の先生が私立の子ども園に入るということは難しいと思うが、当然バックアップはどんな形になってもやっていかなくてはいけないと思う。

委員

ちなみに大野市はどこの主管になっているのか。

会長

市町村によってどこの主管になるのかは違って来る。では、そろそろまとめをしていきたい。  
・幼児教育の適正規模は、1学年10人から12人が必要ではないかということ  
・これからの勝山市の幼児期の教育を公立・私立分け隔てなく考えていくことが必要であること  
以上のことを考えて、公立幼稚園をどうしていくといいのかという判断が今回はまだできていないということではよろしいか。

委員

幼稚園もこども園も同じように考えていくという部分で、今年勤務している小学校では昨年度に年長児を担当してくれた若い保育士たちに授業参観をしていただきその後に交流会を持った。小学校の授業を担当の先生方に見てもらったことがなかったという当たり前のことに気が付いた。このようなことがこれからも少子化になっていく勝山市のために、小学校としてもしていけないといけないと思った。幼稚園、こども園そして、小学校も一緒になって連携をしていかなくてはいけないと、今日は改めて強く感じ

た。

#### 会長

みんなで一緒に考えていくということをキーワードとして、今日の会は閉めさせていただく。

#### 副会長(あいさつ)

皆さんがすべて伝えてくれた通りだ。今後も少子化ということは間違いないので、幼稚園、保育園、小学校をみんなで考えていきたいと思うので、次回もよろしく願いしたい。

#### 事務局

今後はさらに検討して進めさせていただくが、今日の段階ですぐ結論が出るとは思っていない。1回目ですべて市長が伝えたように今年度中に結論は出ささせていただきたいと思っている。次回11月に入ってからとして、あとしばらくはお付き合いをお願いしたい。幼稚園・保育園も一緒だという話もあったが、少子化が止められない状況を市で何かをしなければいけないということにおいて、非常に苦しい状態であるということも理解してほしい。それを前提として、3年後、5年後、10年後を見据えて、行政として今ではなく先を見て考えていかなければいけないと思っている。

少子化が止まらない現状は、手の打ちようがないというか、勝山市は今年から全国1700ある市町村のうちの半分に当たる過疎地域という認定をされた。少子化は今後止まることがないということを見据えて、3年後、5年後、10年後の子どもたちのことを考えて市全体で考えていかなければいけないということである。幼稚園を見直さなくてはいけないことも結論の中に入れていくこともあると考えてほしい。